

研究交流計画の目標・概要

[研究交流目標]交流期間(最長3年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。(自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。)

金沢大学の古代文明・文化資源学研究所は、継続的な国際研究交流拠点として、令和4年度に設立された。アジア・アフリカ地域の古代文明の研究を対象としており、学際的な若手研究者の育成を主眼としている。特に精力を傾けているのが、パレオゲノミクス(古代ゲノム学)の研究を古代文明の解明に用いるための若手研究者の育成であるが、それ以外の自然科学的な分析手法を既存の考古学研究にミックスさせることで、古代文明研究に対して飛躍的な発展をもたらすことを目的としている。本計画では、各国の若手研究者を招致して、日本国内でパレオゲノミクス研究と蛍光X線分析による古代ガラス研究の共同交流事業を実施する。この共同事業では、若手研究者への研修を重視している。この研究・研修成果はセミナー・シンポジウムで国際的に発信する。本国際シンポでは、若手研究者の革新的研究を発表する場として活用していく計画である。

本交流計画で中心となるのは「シルクロード」である。アジア・アフリカ地域には、それぞれの「シルクロード」に関する遺跡がある。これらは古代における国際交流を示す文化遺産である。各国の文化遺産担当者は、これらの遺跡を文化資源として、その価値を高め、適切に保存・整備して有効活用することが求められている。「シルクロード」は、陸のシルクロードと海のシルクロードに分かれる。本研究交流では、陸のシルクロード研究をキルギス、ウズベキスタン、イラン、海のシルクロード研究をベトナム・バーレーン・エジプト、に分かれて行い、シルクロードの終着地である日本で総括的なシンポジウムを実施する。金沢大学の位置する石川県は国史跡の寺家(じけ)遺跡を有している。寺家遺跡は渤海使の寄港地の一つと考えられていることから、石川県はシルクロードの終着地点の一つと考えられてきた。金沢大学の古代文明・文化資源学研究所はこの地の利を活かし、アジア・アフリカ各国の若手研究者の研究ネットワークを形成して、シルクロード遺跡の保存・活用能力を増大させることを目標とした研究交流を実施する。

[研究交流計画の概要]我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく多国間交流として、どのように共同研究、セミナー、研究者交流を効果的に組み合わせるかを、研究交流計画の概要を記入してください。

共同研究

パレオゲノミクス(古代ゲノム学:遺跡から出土する骨や寄生虫卵などの微化石、博物館に収蔵されている生物標本のゲノム解析)研究と蛍光X線分析によるガラス研究を実施する。

セミナー・シンポジウム

共同研究の関係した研修(パレオゲノミクス、蛍光X線)の他に、3D実測・測量セミナーを行う。また、石川県・金沢市の文化施設において、文化資源学研修も実施する。それらの成果をシンポジウムで発表する。

研究者交流

金沢大学の学生が本研究事業のセミナー・シンポジウムに参加して、各国の若手研究者と英語で討論を実施し、国際交流を推進させる。

アジア・アフリカ学術基盤形成型

学際融合と文化資源学による陸海シルクロード研究拠点の形成

